

教育実習の問題点と改善の課題

—— 過去18年間の評価（実習校）を中心として ——
(教職課程報告(2))

The Problems in the Student Teaching at School and their Solutions.

— Center around the evaluation (the practice school) for the past 18 years —
(The teacher-training course report (2))

坂井久司[†]・児嶋文寿^{††}・柴山茂夫^{†††}

Hisashi Sakai・Fumitosi Kojima・Sigeo Shibayama

Abstract : The teacher-training course of the AIT made the 1st research report "The Problems and their Solutions in the Student Teaching in School" in 1983 . This is a study based on the evaluations given for eighteen years since 1984 by the junior or senior high schools where our students of teacher-training course practised. By analyzing how they were evaluated on the three items of the practice evaluation, student guidance, study guidance and practice attitude, I try to improve the guidance in the AIT from now on.

1. はじめに

近年、我が国の社会的現象の中で、少子化が大きな問題となっている。平均寿命の延びと共に高齢化社会は一層深まり、福祉行政の財政負担はかさみ、反面、若者の数が減少することによって、税金、徴収健康保険料等は少なくなり、逆鞘現象は避けられない状況にきている。2002年1月31日の中日新聞によれば、日本の総人口は2006年を境に減少することを厚生労働省のまとめとして発表している。現時点の予測では2050年には日本の人口の35%が65歳以上の老人で占められるようになり、反面、出生率は既に1.6人を割っており予想では1.39人となるようである。こういう事態が日本社会に計り知れない大きな影響を引き起こしていることは周知の通りである。その影響の一つが義務教育学校をはじめ、中等教育諸学校、大学での児童・生徒及び学生数の減少である。

本学の教職課程にも将来の教師を夢見て多くの学生が学び、教員免許状取得のために努力している。しかし、教員採用試験を受験しても採用人数が少ないためにごく少数の人しか合格しない。因みに平成11年3

月に卒業した全国の教育系国立大学の平均就職率は32.0%で、一番低い大学では16.4%である。この数字の中身は、全ての職種を含んでおり、教育関係の就職率だけでは22%を切っている（講師等臨時的任用を含む）。

本学の教職課程からもこれまでに多くの者を教師として世に送り出している。特に県内外の公立工業高等学校をはじめ公・私立の高等学校で活躍し、校長、教頭という要職に就いている者も少なくない。

教職科目の中で教員免許状取得に欠かすことのない科目の一つに「教育実習」がある。毎年6月と11月に実施されているが、大部分は6月の第2週目から2週間の実習に参加している。

義務教育校で実習を希望する者については県教育委員会に事前に申し込みを行い、教育委員会で学生の住所に近い地区の中学校に割り振られる。高等学校で実習を行う者については前年度の半年前までに出身高等学校や本学の所属する同一学園内高等学校（愛知工業大学名電高等学校）或いは教育実習協力高等学校に依頼して受け入れて貰っている。

ここでは過去18年間に中学校、高等学校で「教育実習」を行い、実習校で評価された結果に基づいて、分析、調査、検討を行ってみたいと思う。

2. 評価の結果と問題点

† 愛知工業大学基礎教育センター教職課程
†† 愛知工業大学基礎教育センター教職課程
††† 愛知工業大学基礎教育センター教職課程

本学教職課程では、1984 年度（昭 59）から 2001 年度（平 13）の 18 年間は、中学校「理科」及び「技術」、高等学校「理科」及び「工業」の教員免許状が取得出来た期間である。因みに、2002 年度からは本学で取得出来る教員免許状は高等学校「理科」及び「工業」、それに 2003 年度末に初めて授与される「情報」の教員免許状だけとなる。そういう節目の年と言うことで、中学校並びに高等学校で教育実習を体験したこの 18 年間の総体的に見直し、今後の指導に役立てようとするものである。

なお、本校から各実習校に依頼している「教育実習評価票」は「愛知県教育実習評価票用紙」を使用しているが、他府県の中・高等学校の中にはそれぞれの県指定「評価票用紙」を使う学校もあり（三重県、滋賀県等）、それらの評価については本学の評価項目に換算してある。これらの県で使われている評価票は、「生徒指導」、「学習指導」、「実習態度」の 3 項目それぞれが更に 3 つに細分化してあるため、例えば、評価が AAB の場合は【A】に、BBC の場合は【B】に、BCC の場合は【C】のような評価にして統計をとった。

教育実習成績評価

(中学校:理科)

	生徒指導				学習指導				実習態度				総合評価				人数
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
昭 59	2	1			1	2			3				3				3人
60		1			1				1								1
61	1	1			1	1			2				2				2
62		2			2				2				2				2
63		2			2				2				2				2
平元	3	1			1	3			3	1			3	1			4
2		1			1				1				1				1
3	2	2			2	1	1		2	1	1		2	2			4
4																	0
5	2	2	1		2	3			3	2			3	2			5
6		5			2	3			2	3			1	4			5
7	2				1	1			1	1			1	1			2
8	3	4			5	2			3	4			3	4			7
9	4	5			4	3	2		5	3	1		4	4	1		9
10		4	1		1	4			3	2			1	3	1		5
11	1	6			3	4			5	2			4	3			7
12	1				1				1				1				1
13	1	2	1			3	1			3	1		3		1		4
合計	22	39	3		24	36	4		32	29	2	1	25	36	2	1	64
割合	344	609	4.7		325	563	6.3		500	453	3.1	1.6	391	563	3.1	1.6	%

(中学校:技術)

	生徒指導				学習指導				実習態度				総合評価				人数
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
昭 59	6	14	1		9	11	1		16	5			12	8	1		21人
60	3	10			2	10	1		9	4			4	9			13
61	2	6			5	3			6	1	1		6	2			8
62		8	1		1	8			5	4			1	8			9
63	6	9	1		6	10			7	8	1		4	12			16
平元		3			3				1	2			3				3
2	4	9	1		4	10			10	4			7	7			14
3	2	10			7	4	1		10	2			8	4			12
4	3	9			6	5	1		10	2			6	6			12
5	4	1			2	3			4	1			3	2			5
6	3	5			5	3			7	1			4	4			8
7	4	3			3	4			6	1			5	2			7
8	4	9	2		4	10	1		9	5	1		5	9	1		15
9	2	8	1		3	7	1		5	6			3	8			11
10	5	9	3		7	8	2		9	6	2		6	9	2		17
11	2	10			3	8	1		6	5	1		2	10			12
12	1	5	1		3	3	1		3	4			2	4	1		7
13	4	8	1		3	10			7	6			5	8			13
合計	55	136	12		73	120	10		130	67	6		83	115	5		203
割合	271	620	5.9		360	591	4.9		640	330	3.0		409	567	2.5		%

(1) 概評について

中学校「理科」、「技術」、高等学校「理科」、「工業」全ての評価票の中で総合評価に【D】が付いた者は平成 13 年度（今年度）の中学校「理科」一名

だけである。

教育実習成績評価

(高校:理科)

	生徒指導				学習指導				実習態度				総合評価				人数
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
昭 59	7	16	1		7	16	1		16	7	1		9	14	1		24人
60	6	12	1		5	13	1		11	8			9	9	1		19
61	1	6			1	6			3	4			1	6			7
62	4	5			8	1			9				8	1			9
63	3	9			5	7			6	6			5	7			12
平元	3	11	1		6	8	1		8	7			4	11			15
2	1	10			2	8	1		8	3			2	9			11
3		6			4	2			4	2			3	3			6
4	6	11			4	12	1		10	7			7	10			17
5	8	12			15	5			14	6			13	7			20
6	12	11	1		11	13			14	10			13	11			24
7	5	7			9	3			10	2			8	4			12
8	15	12	3		18	11	1		19	10	1		20	10			30
9	8	21			17	12			21	8			19	10			29
10	8	18			13	12	1		18	8			13	13			26
11	13	16	2		13	16	2		16	13	2		15	15	1		31
12	1	16			9	8			8	9			4	13			17
13	8	17	1		10	14	2		16	9	1		12	14			26
合計	109	216	10		157	167	11		211	119	5		165	167	3		335
割合	325	645	3.0		469	499	3.3		630	355	1.5		493	494	0.9		%

(高校:工業)

	生徒指導				学習指導				実習態度				総合評価				人数
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
昭 59	19	37	6		25	30	7		37	22	3		25	33	4		62人
60	7	23	2		17	13	2		25	6	1		16	14	2		32
61	5	26			8	23			17	14			9	22			31
62	4	17	2		10	10	3		13	8	2		11	10	2		23
63	3	28	2		11	19	3		15	15	3		9	22	2		33
平元	11	12	6		14	11	4		19	7	3		15	10	4		29
2	9	11			8	8	4		13	7			11	9			20
3	7	13			10	9	1		15	4	1		12	7	1		20
4	6	10	2		7	10	1		11	7			7	10	1		18
5	6	15	1		10	12			17	5			11	11			22
6	11	10			12	9			16	5			16	5			21
7	6	11	2		9	10			12	7			8	11			19
8	20	18	5		22	20	1		25	16	1	1	24	17	2		43
9	15	15	2		19	13			26	6			24	8			32
10	9	18	5		16	13	3		21	8	3		20	9	3		32
11	8	16	1		13	12			19	6			14	11			25
12	10	17			14	10	3		18	8	1		14	12	1		27
13	9	14	4		11	14	2		15	8	4		11	13	3		27
合計	165	311	40		236	246	34		334	159	22	1	258	234	25		516
割合	320	603	7.8		457	477	6.6		647	308	4.3	0.2	500	453	4.8		%

【D】評価を受けた学生が実習を行った中学校の教務主任の説明では、

①授業参観の時居眠りをしており、生徒から「先生眠いの？」と聞かれていた。

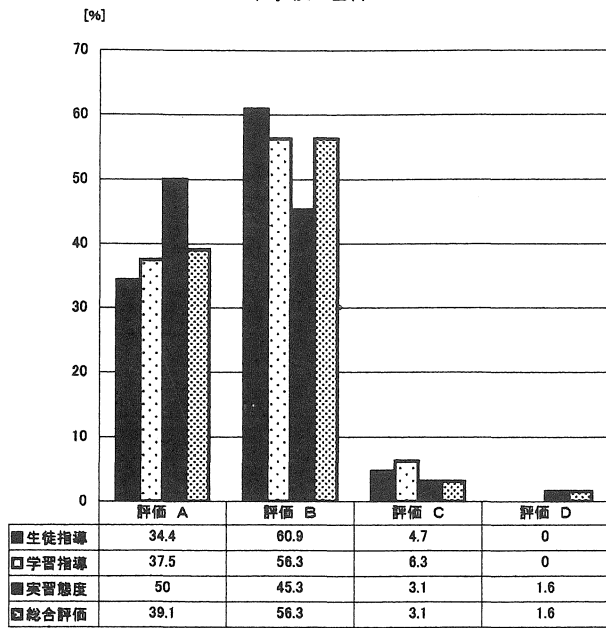
②校長の教育実習生への訓話の時も居眠りをしていた。

「これでは教育実習生としての資質が問われます。本校には他の大学からも 4 名の教育実習生が来ておりますが失礼ながら彼は最低です」と厳しい口調であった。

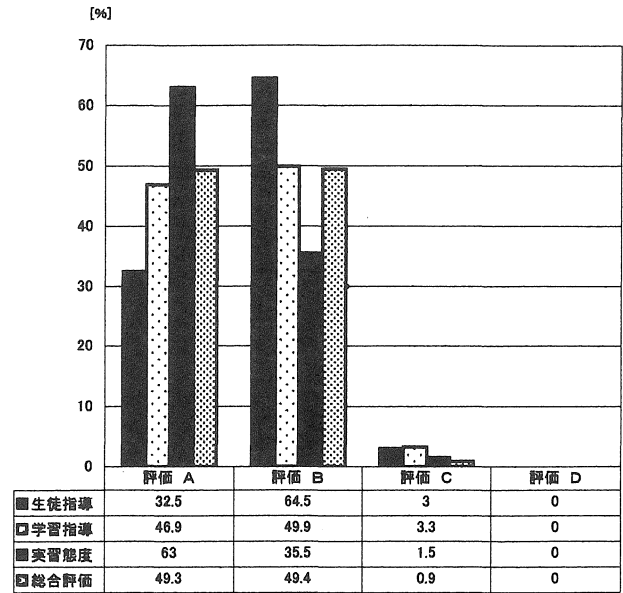
一方、【D】評価を受けた学生の弁明では、化学実験で遅くなり、寝不足気味で実習初日を迎えた。それに授業参観の前日も中学校を出た後、大学へ戻ったので、寝る時間がなかった、と言うことであった。いずれにしても教育実習に臨む者としての心がけが大変お粗末である。この問題は、本学の「教育実習事前指導」の大きな指導項目の一つとなった。

学生の肩を持つわけではないが、この学生の評価項目を見た場合、項目ごとの評価が C・C・D で、本来なら総合評価【C】になっても良いはずであるが、実習担当校ではそういう単純平均の評価はしてもらえなかった。

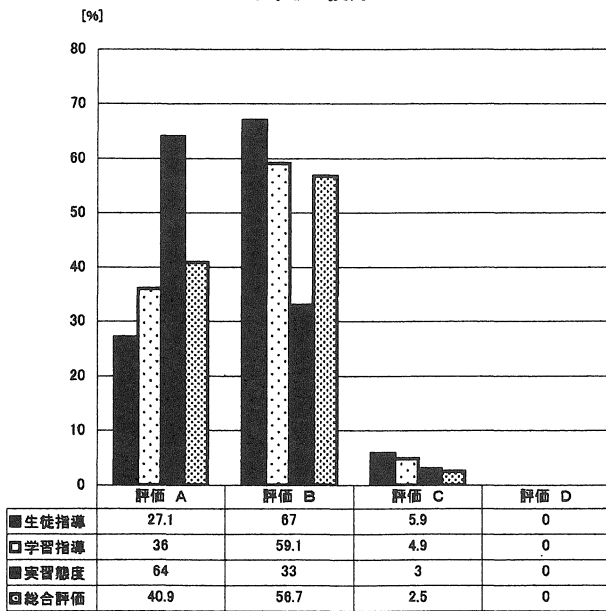
中学校 理科



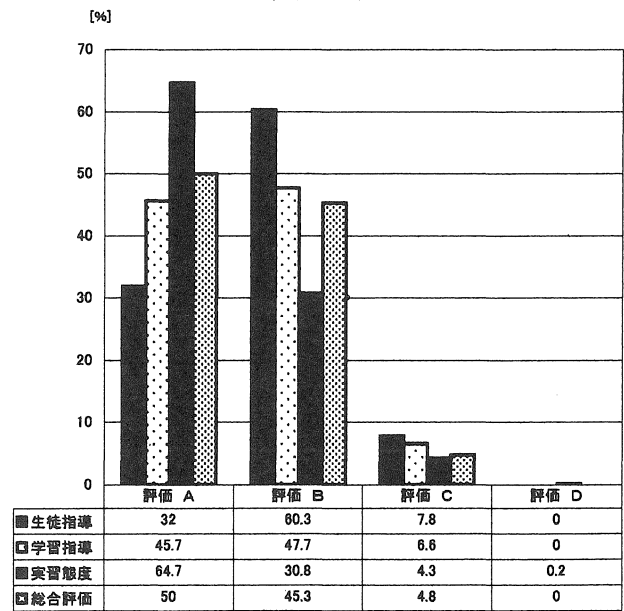
高校 理科



中学校 技術



高校 工業



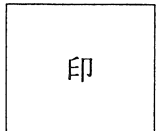
平成 年度 教育実習評価票

大 学 名	学 部 ・ 学 科 等			実 習 生 氏 名	
愛 知 工 業 大 学	工学部				
実 習 校 名	配 属 学 年	実 習 教 科 (注 1)		実 習 期 間	
				月 日 から 月 日 まで	
評 価 項 目	評 価 (注 2)				主 な 観 点
	A	B	C	D	
生 徒 指 導					・ 児童・生徒の観察・理解
					・ 指導能力
					・ 指導態度
学 習 指 導					・ 教科等に関する能力
					・ 指導能力
					・ 指導態度
実 習 態 度					・ 実習生としての自覚
					・ 教職に対する熱意
					・ 実務能力
					・ 教育実習記録等
出 欠 席	出席すべき日数			日	理 由
	出席日数			日	
	欠席日数			日	
	遅刻	回	早退	回	
総 合 評 価 (注 2)	A	B	C	D	特 記 事 項 (注 3)
指 導 教 諭 名 氏	印				
	印				

平成 年 月 日

学 校 名 _____

校 長 氏 名 _____



注 1 実習教科欄は、中学校・高等学校のみとする。

注 2 評価及び総合評価は、それぞれ B を標準、D を不合格とし、該当欄に○印をつける。

注 3 特記事項は、評価項目その他について特に記すべき事があれば記入する。

(2) 評価項目別には

実習生全体ではグラフからも明らかなように、標準の【B】以上の評価が多く、特に本学の学生は「実習態度」が大変良いと言うことが目に付く。逆に、「生徒指導」では評価【A】が少なく厳しい。この理由は、実習生にしても、わずか2週間の間に生徒達の中に入って話し合ったり、授業中或いは放課後に態度の悪い生徒を指導すると言うことはかなり勇気のいることである。ましてや教育実習生の身では遠慮がちになり、生徒指導で評価【A】を貰うことは難しい。過去に、生徒に体罰を与えた学生の「生徒指導」欄に評価【A】が付けられたと言うことがあったが、これは如何なものかと思う。

高等学校「工業」では総合評価【A】が【B】を勝っており本学の学生全般の社会的評価と相通ずる点が見られる。高等学校「理科」でみた場合も総合評価【A】と【B】は拮抗している。

一方、中学校「理科」及び「技術」の総合評価は【B】の方が【A】を上回っている。その理由は、義務教育学校では教育大学出身の教師が大部分を占めており、教員養成については厳しい態度で臨んでいる。その為、教育実習生の甘えや妥協は許されない。それに、実習担当校は愛知県教育委員会で割り振られ、出身校とは関係のない中学校で教育実習を行わなければならない。また、教育を専門に学んでいる教育学部の学生と一緒に実習を行わなくてはならず、比較されやすい。反面、高等学校で実習を行う者は、自分の出身校が殆どで、在学中に指導を受けた恩師も多く、学校の雰囲気も分かっており、実習がしやすいという利点がある。また、実習評価も自校の卒業生と言うことで甘い評価が与えられることもある。ただし、愛知工業大学名電高等学校の教育実習評価は他校の評価より厳しい採点基準で評価される。それは、姉妹校だからと言う甘えを断ち切った本来の教育的配慮と言った方がよい。自分の卒業した高等学校で実習を行う者より義務教育学校で実習を受けた者は幾分厳しい評価と言える。

過去18年間の実習評価全体を冷静に見たとき、教職担当者として反省すべき点が多々ある。その一つが、評価項目「生徒指導」欄の評価【A】の割合が低い点である。授業中、態度の悪い生徒を注意したり、寸暇を惜しんで生徒達の中に入り込み、良い点は褒めてやり、悪い点を注意し、注意された生徒が素直に反省してくれるような指導がほしい。教育実習に臨む学生の人格を高めることが大切である。二つ目は、本学の実習生は「実習態度」の評価が比較的良いと言われているが、ここ数年、評価【C】を貰う者が出てきている。教育実習の重要性、その意義について十分理解しないまま実習に出ているようである。そのよい例が中学校理科で総合評価【D】

を付けられた唯一の学生である。これは本学教職課程始まって以来の汚点と言える。今後はこういう点にも十分配慮して指導を徹底して行きたい。

(3) 教員採用状況について

本学で教員免許状を取得し、公立中・高等学校に採用された者の人数を見ると、高等学校では昭和56年度頃より平成2年度位までは毎年10名近くの者が採用されており、中学校でも昭和60年度から平成2年度までは、やはり多いときで10名近くの者が採用されている。その後は少子化と学級数の削減によって中・高等学校共に教員の採用人数が極端に少なくなり、本学もその影響をもちに受け、採用人数はかなり減少している。しかし、ここ2、3年少し盛り返し、現役合格及び1年間ぐらい中・高等学校で講師（非常勤を含む）をやって採用試験に合格し、教育界に身を置く者が増えてきている。今後の課題としては、教員採用試験のための特別講座を設けたり、補習などによって学科試験、作文、面接等の力を養うことが必要である。

3. おわりに

近年教員の採用率が極めて低く、折角大学の教職課程で多くの科目を履修し、教員免許状を取得しても就職口が無くやむおえず他の職業に就いている人が沢山いる。教育は国の存立の根幹であり、その教育に携わろうとする者に少しでも手を差し伸べてやることこそが教職課程に携わる者の責務である。

我が国で最も歴史のある某大学の場合、1学年の総学生数6,300名、その内教職課程履修者は780名である。その中で平成13年4月に教師になった者の数は僅か22名である。22名の内訳は、全て私立中・高等学校への採用であった。現在この大学の教職課程部では、全国の公立学校で教職に就いている卒業生に対して、一人でも二人でもそれぞれの府県で採用してもらえようと働き掛けている。

本学の学生は実社会に出ても真面目に努力するという評価を得ており、教育現場でも必ず努力を惜しむことなく教育愛に満ちた指導が出来るものと確信する。

愛知県の教育界の第一線で活躍している本学の卒業生達を見ても、県立工業高等学校長会長を最後に退職した者をはじめ、現在県立工業高等学校長在職の者、或いは、各中・高等学校の要職に就いている者など沢山いる。全国的視野で見ても各府県の教育界で活躍している者は枚挙に遑がない。こういう先輩達の後に続く有能な人材を育て上げることが我々の努めである。

本報告の調査結果を十分に検討し、改善すべき点は真摯に受け止め、より密度の濃い指導を心がけたい。

(受理 平成14年3月19日)